



## 堅固 大地震でも倒れず... 日銀本店



中央銀行として金融政策を担う日本銀行本店。その本館は近代の代表的な建築家、辰野金吾の設計で、現存する明治の近代建築のうち、最も重要な一つとされる。建物は上から見ると、「円」の字になるのがユニークだ。ただ、建築当時は、「圓」の字が使われており、偶然だという。

東京駅から徒歩10分ほど。歴史を感じさせる荘厳な石造りの建物が目を引く。

1890年に着工し、96年に完成した。地上3階、地下1階で、外壁は石積みの内側にレンガを積む「石積みレンガ造り」。古典主義建築の重厚なデザインだ。電動エレベーターや水洗式のトイレなど、当時ではまだ珍しい先進的な設備を取り入れていた。

日銀は1882年に開業した当初、隅田川下流の旧永代橋（現在の中央区日本橋箱崎町）にあった。現在の地に移転したのは、江戸時代から両替商が軒を連ね、金融機関が集中していたことと、大蔵省（現在の財務省）などに近かったためだ。

建物の堅固さから、1923年の関東大震災では一部が損傷したが、倒壊はしなかった。一方、火災でシンボルのドーム屋根が焼失するなどの被害が出た。その後、復元され、74年には国の重要文化財に指定された。銀行のほとんどの業務は、73年に本館の北側に建設された新館で行われている。



見学が可能で、ネットによる事前予約が必要。日銀の役割や建物の歴史を学べる。日銀の広報担当者は、「見学を通じて日銀のことを身近に感じてほしい」と話す。

